



SnapMirror

DR デスティネーションボリュームからのデータの提供

Element Software

NetApp

November 21, 2024

目次

SnapMirror DRデスティネーションボリュームからのデータの提供	1
デスティネーションボリュームを書き込み可能にする	1
デスティネーションボリュームをデータアクセス用に設定	2
元のソースボリュームを再アクティブ化	2

SnapMirror DR デスティネーションボリュームからのデータの提供

デスティネーションボリュームを書き込み可能にする

災害によって SnapMirror DR 関係のプライマリサイトが機能しなくなった場合は、システム停止を最小限に抑えてデスティネーションボリュームからデータを提供できます。プライマリサイトでサービスが復旧したら、ソースボリュームを再アクティブ化できます。

デスティネーションボリュームからクライアントにデータを提供するには、デスティネーションボリュームを書き込み可能にする必要があります。コマンドを使用すると、デスティネーションへのスケジュールされた転送を停止したり、`snapmirror abort` コマンドを使用して実行中の転送を停止したり、`snapmirror break` コマンドを使用してデスティネーションを書き込み可能にしたりでき `snapmirror quiesce` ます。

このタスクについて

Elementのソースパスをの形式で指定する必要があります <hostip:>/lun/<name>` ます。「LUN」は実際の文字列「LUN」、`name` はElementボリュームの名前です。

手順

1. デスティネーションへのスケジュールされた転送を停止します。

```
snapmirror quiesce -source-path <hostip:>/lun/<name> -destination-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、IPアドレス10.0.0.11のソースボリュームとの `svm_backup`` デスティネーションボリューム ``volA_dst`` の間のスケジュールされた転送を停止します `0005`。

```
cluster_dst::> snapmirror quiesce -source-path 10.0.0.11:/lun/0005
-destination-path svm_backup:volA_dst
```

2. デスティネーションへの実行中の転送を停止します。

```
snapmirror abort -source-path <hostip:>/lun/<name> -destination-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、IPアドレス10.0.0.11のソースボリュームとの `svm_backup`` デスティネーションボリューム ``volA_dst`` の間の実行中の転送を停止します `0005`。

```
cluster_dst::> snapmirror abort -source-path 10.0.0.11:/lun/0005
-destination-path svm_backup:volA_dst
```

3. SnapMirror DR関係を解除します。

```
snapmirror break -source-path <hostip:>/lun/<name> -destination-path  
<SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、IPアドレス10.0.0.11のソースボリュームとの `svm_backup` デスティネーションボリュームと `volA_dst` のデスティネーションボリュームと `volA_dst` の `svm_backup` 関係を解除します `0005`。

```
cluster_dst::> snapmirror break -source-path 10.0.0.11:/lun/0005  
-destination-path svm_backup:volA_dst
```

デスティネーションボリュームをデータアクセス用に設定

デスティネーションボリュームを書き込み可能にしたら、ボリュームをデータアクセス用に設定する必要があります。ソースボリュームが再アクティブ化されるまで、SANホストはデスティネーションボリュームのデータにアクセスできます。

1. Element LUN を適切なイニシエータグループにマッピングします。
2. SAN ホストイニシエータから SAN LIF への iSCSI セッションを作成します。
3. SAN クライアントで、ストレージの再スキャンを実行して接続された LUN を検出します。

元のソースボリュームを再アクティブ化

デスティネーションからデータを提供する必要がなくなった場合は、ソースボリュームとデスティネーションボリュームの間で元のデータ保護関係を再確立できます。

このタスクについて

次の手順は、元のソースボリュームのベースラインが損なわれていないことを前提としています。ベースラインが損なわれている場合は、この手順を実行する前に、データの提供元のボリュームと元のソースボリュームの間での関係を作成して初期化する必要があります。

Elementのソースパスをの形式で指定する必要があります `<hostip:>/lun/<name>`。 「LUN」 は実際の文字列「LUN」、 `name` はElementボリュームの名前です。

ONTAP 9.4以降では、Elementソースが再アクティブ化されると、ONTAPデスティネーションからデータを提供している間に作成されたLUNのSnapshotコピーが自動的にレプリケートされます。

レプリケーションルールは次のとおりです。

- iSCSI LUNのみがサポートされます。
- ONTAPボリュームからElementボリュームに複数のLUNをレプリケートすることはできません。
- 1つのONTAPから複数のElementボリュームにLUNをレプリケートすることはできません。

手順

1. 元のデータ保護関係を削除します。

```
snapmirror delete -source-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>  
-destination-path <hostip:>/lun/<name> -policy <policy>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、IPアドレス10.0.0.11の元のソースボリュームとデータの提供元のボリューム volA_dst` の間の関係を削除します `0005 svm_backup。

```
cluster_dst::> snapmirror delete -source-path 10.0.0.11:/lun/0005  
-policy MirrorLatest -destination-path svm_backup:volA_dst
```

2. 元のデータ保護関係を反転します。

```
snapmirror resync -source-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>  
-destination-path <hostip:>/lun/<name> -policy <policy>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

再同期の際にベースライン転送は不要ですが、再同期には時間がかかる場合があります。再同期はオフピークの時間帯に実行することを推奨します。

次の例は、IPアドレスが10.0.0.11の元のソースボリュームとデータの提供元のボリューム volA_dst` の間の関係を反転します `0005 svm_backup。

```
cluster_dst::> snapmirror resync -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path 10.0.0.11:/lun/0005 -policy MirrorLatest
```

3. 反転した関係を更新します。

```
snapmirror update -source-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>  
-destination-path <hostip:>/lun/<name>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。



ソースとデスティネーションに共通のSnapshotコピーが存在しない場合、コマンドは失敗します。を使用し `snapmirror initialize` で関係を再初期化します。

次の例は、 `svm_backup`` データの提供元のボリュームと元のソースボリューム (`0005` IPアドレス10.0.0.11) ` の間の関係を更新します `volA_dst。

```
cluster_dst::> snapmirror update -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path 10.0.0.11:/lun/0005
```

4. 反転した関係のスケジュールされた転送を停止します。

```
snapmirror quiesce -source-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>  
-destination-path <hostip:>/lun/<name>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、`svm_backup`データの提供元のボリュームと元のソースボリューム（`0005`IPアドレス10.0.0.11）`の間のスケジュールされた転送を停止します ``volA_dst``。

```
cluster_dst::> snapmirror quiesce -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path 10.0.0.11:/lun/0005
```

5. 反転した関係の実行中の転送を停止します。

```
snapmirror abort -source-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume> -destination  
-path <hostip:>/lun/<name>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、`svm_backup`データの提供元のボリュームと元のソースボリューム（`0005`IPアドレス10.0.0.11）`の間の実行中の転送を停止します ``volA_dst``。

```
cluster_dst::> snapmirror abort -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path 10.0.0.11:/lun/0005
```

6. 反転した関係を解除します。

```
snapmirror break -source-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume> -destination  
-path <hostip:>/lun/<name>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、``svm_backup`データの提供元のボリュームと元のソースボリューム（`0005`IPアドレス10.0.0.11）`の間の関係を解除し ``volA_dst``ます。

```
cluster_dst::> snapmirror break -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path 10.0.0.11:/lun/0005
```

7. 反転したデータ保護関係を削除します。

```
snapmirror delete -source-path <SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>  
-destination-path <hostip:>/lun/<name> -policy <policy>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、IPアドレス10.0.0.11の元のソースボリュームとデータの提供元のボリューム `volA_dst`の間`

の反転した関係を削除します `0005 svm_backup`。

```
cluster_src::> snapmirror delete -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path 10.0.0.11:/lun/0005 -policy MirrorLatest
```

8. 元のデータ保護関係を再確立します。

```
snapmirror resync -source-path <hostip:>/lun/<name> -destination-path  
<SVM:volume>|<cluster://SVM/volume>
```

コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

次の例は、IPアドレス10.0.0.11の元のソースボリュームと volA_dst`の `svm_backup`間の関係を再確立します `0005`。

```
cluster_dst::> snapmirror resync -source-path 10.0.0.11:/lun/0005  
-destination-path svm_backup:volA_dst
```

終了後

コマンドを使用し `snapmirror show`で、SnapMirror関係が作成されたことを確認します。コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。